



国際・公共政策大学院
公共経済プログラム 2019年修了
2019年9月～2020年1月 派遣
YS さん



留学先の大学では、イタリアの財政学と語学を中心に学びました。イタリアは日本と同じく巨額の財政赤字を抱える国であるため、経済・財政運営のあり方について両国を比較して議論することも多くあり、日本が国際的な視点でどのように映るのかを実感することができました。

イタリア語の授業では、語学以外にも、現地学生や留学生との交流の中で、各国の生活や文化、価値観について語り合うことも多く、世界の広さを知ると同時に、日本という国について改めて考える貴重な機会となりました。彼らと欧州各地を旅行したことは今でも良い思い出です。

卒業後は、財務省でマクロ経済政策を担う部局で勤務しています。業務では、日本が諸外国と比べてどのような経済的立ち位置にあるのか、海外の動向にも目を向けながら経済情勢を調査する必要があります。その際は、留学中に仲間たちと議論した時のように、各国の政治、社会、文化的背景まで広くアンテナを張りつつ、積極的に関係者と意見交換を行いながら情報収集をすることを意識しています。留学を通じて国際的な視点を養えたことが、今でも活きていると思います。



最後に、留学は完全アウェイな環境に一人で飛び込むため苦しいこともありますが、その中で得る新しい発見や様々な人との出会いは、人生を豊かにしてくれると思います。少しでも興味があればIPPの海外留学制度を活用してみてください。